

日本語学校ネットワーク *News letter* No.17

会長挨拶

3.11 東日本大震災から一年と数か月が経過しました。被災地の復興にも、原発事故の復旧にもまだまだ時間を要するようです。震災と原発事故の影響で入学辞退者、途中退学者が続出し、大きな被害を受けた日本語学校にとってはどんな一年だったのでしょうか。日振協の調査によると 4 月学期の応募総数は 17% 減、7 月 1 日現在の在籍者数は 24% 減です。国籍により増減は大きく異なりますので一概には言えませんが、多くの学校にとって厳しい学校経営が強いられました。また少子化による学生減に対応するため大学、専門学校、塾・予備校などが留学生募集に力を入れ始めました。これを反映するかのようにいくつかの日本語学校では大幅なリストラや経営権の売買などもあったように聞いております。この厳しい経営環境を考えながらネットワークを結成した 1997 年当時を思い起こしました。前々年の 95 年に阪神淡路大震災、オオム地下鉄サリン事件が起こり、急激な円高にも見舞われました。日本語学校の氷河期と呼ばれる 90 年代の厳しい時代に起こった出来事でした。多くの日本語学校が閉鎖や倒産で消えて行った時代でした。日本語学校の足元は真っ暗で「明日は我が身」と戦々恐々としていました。互いに情報交換をしながら啓蒙しあおう、明るい未来を考えて頑張ろうと東京地区日本語学校ネットワーク（その後「日本語学校ネットワーク」に改称）が誕生しました。1997 年の資料を調べると全国の日本語学校の数 276 校、在学生数 13,234 人です。昨年の在学生数は震災で減ったとは云え 33,239 人ですから、その頃に比べれば日本語学校の事業規模は拡大し、社会的地位は格段に向上したと言えるでしょう。一日も早く震災前の状態に復旧できることを願ってやみません。

さて 2011 年のネットワークの主な活動についてですが、3.11 後に発足した震災復興支援日本語

学校協議会は、ネットワークの幹事すべてが世話人となっていることから主な活動は同協議会の活動として行われました。入管局へ在留資格認定証明書交付申請締切延長、同認定書の有効期間の延長請願、民主党へ「東日本大震災と福島第一原発事故を受けて帰国した外国人留学生の呼び戻しに関する要望書」提出、文部科学省へ外国人留学生の呼び戻し策の検討要請、日本記者クラブでの記者会見、被災地復興支援日本語学校生ボランティア部隊の派遣、原子力損害賠償請求委員会の発足等々いろいろと行いました。この震災復興支援日本語学校協議会は当初の予定通り 2011 年 12 月をもって解散いたしました。その内部委員会として発足した原子力損害賠償請求委員会は東電との協議が継続していることから独立した委員会として活動を続けています。

日本の安全神話の崩壊、財政破綻の懸念等々がマスコミを賑わす今日この頃ですが、日本円は高止まりして一向に下がる気配がありません。崩壊や破綻が懸念される国の通貨が高いはずがないと考えるのは私が経済の素人だからでしょうか。日本が世界で一定の地位を確保できるのであれば、日本語学習者、日本留学希望者も大きく減少することはないのではと勝手に考えています。しかし語学留学生の受け手は、日本語学校だけではありません。 今後は少子化による日本人学生の減少に悩む他のセクターとの激しい留学生争奪戦が繰り広げられると予想されます。これらの戦いで生き抜いていくには日本語学校同士の協力・連携が欠かせません。日本語学校ネットワークが協力・連携のために有効に機能できることを願っております。

日本語学校ネットワーク
会長 大日向 和知夫

平成23年度活動報告

2011年

- 4月 本ネットワーク幹事と全国各種学校日本語学校協議会の幹事が震災対策会議を行い、それぞれの執行部のメンバー一部が加わり「震災復興支援日本語学校協議会」を時限的（本年12月まで）に発足させる。
- 4月 「震災復興支援日本語学校協議会」の活動の一環として日本語学校ネットワークと全国各種学校日本語学校協議会が連名で「東日本大震災と福島第一原発事故を受けて帰国した外国人留学生の呼び戻しに関する要望書」を民主党企業団体対策委員長である山根隆治衆議院議員に提出。
- 5月 文部科学省高等教育局留学生課を訪問し、東日本大震災と福島第一原発事故を受けて帰国した外国人留学生を呼び戻すための様々な施策を実施するよう陳情。
- 5月 「震災復興支援日本語学校協議会」の堀道夫代表世話人が日本記者クラブで同協議会の発足の発表と東日本大震災と福島第一原発事故を受けて帰国した外国人留学生を呼び戻す必要性を訴えるために記者会見を実施。
- 5月 「震災復興支援日本語学校協議会」が被災地復興支援日本語学校生ボランティアを募集し、石巻市に派遣。＜東京地区の日本語学校から147名、仙台地区から26名が参加した。＞
- 6月 日本語学校ネットワーク会長と全国各種学校日本語学校協議会代表が鈴木寛文部科学省副大臣を訪問し東日本大震災と福島第一原発事故を受けて帰国した外国人留学生を呼び戻すための様々な施策を実施するよう陳情。
- 6月 本ネットワークが後援するRJC主催の公開セミナー「原発被害と損害賠償」が開催される。
- 7月 祭典実行委員会開催
- 7月 平成22年度年度末総会開催
コメンテーターとして堀道夫氏（全国各種学校日本語協議会代表世話人、震災復興支援日本語学校協議会 代表世話人）より事業仕分け結果を踏まえた法務省告示の枠組みの在り方について及び今後の日清協と日本語学校についてご講演頂いた。
- 8月 公開セミナー「東電への賠償請求に向けて」（主催：㈱移民情報機構、震災復興日本語学校協議会）を後援
- 8月 祭典実行委員会開催
- 9月 震災復興日本語学校協議会内に原子力損害賠償請求委員会を発足させる。
- 10月 「震災復興支援日本語学校協議会」が第二回被災地復興支援日本語学校生ボランティア隊を石巻市に派遣。＜9校42名が参加した＞
- 10月 第十三回語学留学生の祭典開催。 約4000人の参加者を集め、成功裏に終了。
- 11月 原子力損害賠償請求委員会が東京電力担当者と協議、損害賠償請求の第一次ガイドラインについて話し合う。
- 12月 原子力損害賠償請求委員会が東京電力担当者を招き、第一次損害賠償請求の範囲と方法についての説明会を開催する。
- 12月 祭典実行委員会忘年会
- 12月 震災復興日本語学校協議会の解散および独立委員会としての日本語学校原子力損害賠償請求委員会の発足

2012年

- 2月 祭典実行委員会開催し、本年2012年の祭典の休止を決定する。
- 3月 日本語学校原子力損害賠償請求委員会を開催し、第二次損害賠償請求の範囲を検討開始
- 4月 日本語学校原子力損害賠償請求委員会を開催し、第二次損害賠償請求の範囲を決定し、東電に協議を打診。
- 6月 日本語学校原子力損害賠償請求委員会が東電と第二次損害賠償請求の範囲と方法について協議予定。
- 6月 平成23年度年度末総会開催予定

‘11年度ネットワーク決算報告

収入		支出	
前年度繰越金	¥303,169	通信費	¥ 30,000
会費収入	¥ 63,000	総会、講演会費用	¥ 14,209
預金利息	¥ 58	祝花	¥ 21,525
		印刷費	¥ 2,700
		次期繰越金	¥297,793
収入合計	¥366,227	支出合計	¥366,227

日本語学校の原子力損害賠償請求

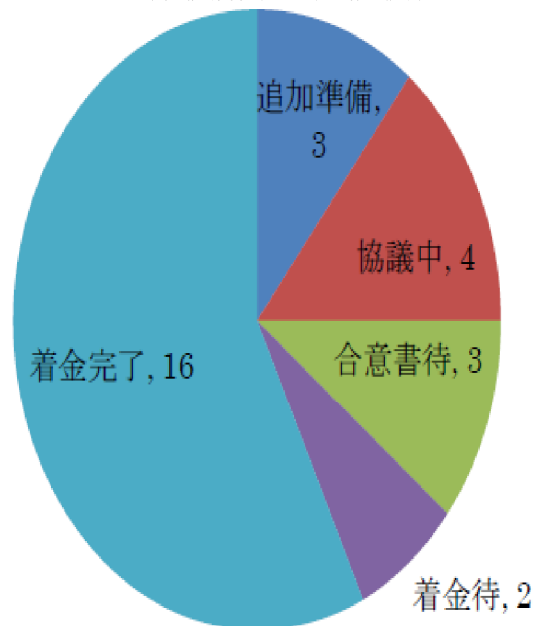
日本語学校では原発事故の影響を受け、多数の入学辞退者、退学者が発生しました。そこで移民開発機構の石原進氏の助言を受けた震災復興支援日本語学校協議会の世話人は原子力損害賠償紛争審査会を傍聴するなどして日本語学校が原子力損害賠償請求を行う可能性を探っていました。その後、移民開発機構が主催する関連のセミナーの開催に協力しながら、この問題に興味のある日本語学校にお集まりいただきました。そしてその後の活動には、より多くの情報収集、ロビー活動が必要であることなどを話し合いました。そこでこれらの活動を移民情報機構に業務として委託することになりました。また、これには一定の費用が発生することから、これらの学校に費用負担をお願いし了承されました。さらに参加校の中から自薦、他薦で委員を募り、原子力損害賠償請求委員会が組織されることになりました。その後、文部科学省、経済産業省および関係者にロビー活動を行いながら、東電担当者と直接に話し合える環境作りを行いました。こうして最初の話し合いが行われたのは平成23年11月18日でした。すると東電側が考える賠償の範囲と当委員会が考える範囲が異なっていることが判明しました。そこで両者がともに認める範囲と異なる範囲に分けて、二段階で行うことにしました。賠償請求の第一段階では、「入学辞退者の発生により被った損害の賠償」についての賠償請求をおこなうこと、また異なる範囲については引き続き協議を行うことで合意しました。委員会では、これらの話し合いを基にしてガイドラインを策定し参加校に公表しました。各学校のご意向を確認し、このガイドラインに従って請求を行う日本語学校の名簿（37機関、32設置者）とともに東電に提出したのは12月の初旬のことでした。本年2月末にこれらの日本語学校に対してアンケート調査（回答率



原子力損害賠償請求委員 大日向 和知夫

75%)を行ったところ、88%が請求済みであり、そのうちの76%は学校が提示した損害賠償請求額に東電が合意済みでした。現在、同委員会は「退学者の発生により被った損害の賠償」について東電と協議中です。

賠償請求の進捗状況



「日本語教育機関が行う原子力損害賠償請求のガイドラインI」沿って賠償請求を行う教育機関（37教育機関、32設置者）の進捗状況

2011年2月25日現在



第13回 語学留学生の祭典 報告

平成23年10月25日、池袋サンシャインシティにおいて語学留学生の祭典が開催されました。第13回目を迎えた祭典ですが、この10年間は語学留学生の出口に焦点を当てた「進学・就職・国際交流フェア」として、「就職」という時代を先取りしたコンセプトを取り入れ、また最も多くの日本語学校生が参加する催しとしても注目されてきました。今回は昨年の東日本大震災による影響で参加学生数が減り、盛り上がり欠けるのではと憂慮されましたが、日本と日本語学校が元気だということを世界に向けてもアピールできたらと、新たな企画も盛り込んで開催にこぎつけました。

当日は約3500人の学生が参加し、予想以上に賑やかな祭典になり実行委員一同、胸をなでおろしました。今回、東日本大震災復興支援活動ブースを設けて、ネットワークで行った被災地ボランティア活動に参加した学生の作文や写真などを展示するとともに、被災地への応援メッセージを書いたり、動画として発信したりできるようにしました。また着物ショー、腕相撲、抽選会といった従来のプログラムに加え、アニソコンテストやコスプレのパフォーマンスで日本の良さをアピールするものも加わり、ステージも一



祭典実行委員会
委員 永井早希子

層の盛り上がりを見せました。

震災の影響により協力企業や就職ブース参加企業が減ったことで、収入減により収支的には厳しくはありましたが、日本語学校生からの「頑張れ！日本」というメッセージは、今回の祭典で日本に向けて発信できたのではないかと思います。



第13回 語学留学生の祭典決算報告

収 入		
適 用		決算額
参加費	日本語学校	¥700,000
	専門学校、大学	¥3,200,000
	企業	¥350,000
	懇親会参加費	¥86,000
広告掲載費		¥555,600
前年度繰越金		¥461,016
合計		¥5,352,616

支 出		
適 用		決算額
会場費用	賃借費	¥1,329,090
	設営費	¥1,527,430
イベント費用		¥1,700,000
昼食費用		¥201,719
懇親会費用		¥160,740
印刷代、通信費等		¥68,644
広告費		¥50,000
雑費		¥6,265
次期繰越金		¥308,728
合計		¥5,352,616



平成24年の語学留学生の祭典

「進学・就職・国際フェア」休止について

日本語学校ネットワークでは毎年10月に語学留学生の祭典「進学・就職・国際フェア」を行っております。本年の開催につきましても検討いたしました。震災、原発事故の影響による学生数の減少、また今後の祭典の在り方について等の議論を重ねましたが、明確な結論に至りませんでした。そこで本年、平成24年につきましては、ひとまず祭典の開催を休止し、来年以降についての議論を行うことになりましたのでご報告申し上げます。これまでご参加いただいていた学校様におかれましては、どうかご了承いただきたくお願い申し上げます。

なお、本年は、(株)さんぼう、(株)ミュージズの里、GLナビゲーション(株)等が中心となって、下記の「語学留学生フェア2012～進学・就職・国際交流～」を開催するとの連絡を頂いております。

祭典実行委員会
委員長 大日向 和知夫

第二回 日本語学校留学生ボランティア隊

震災復興支援日本語学校協議会は第一回（5月26日～27）に続き、9月18日～21日に総勢42名のボランティア隊を宮城県石巻市へ派遣した。

< 報 告 >

被災地。それは、想像を絶する場所、考えられないような場所を指すことだと、正直、初めて知った気がした。それは、私のみならず、この震災復興支援ボランティアに参加した日本語学校留学生全員が感じたことである。



9月18日深夜に新宿を出発した私たちは、最初どこか遠足に行くかのような雰囲気があった。しかし、被災地が近くになるにつれ車窓の景色がそれまでのものとは一変し、全壊半壊した家々や陸地に取り上げた旅客船などをみた留学生の表情が、被災地の惨状を物語っていた。

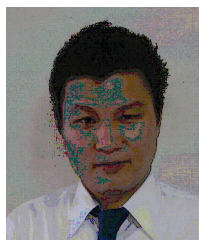
私たちは宿舎に到着後、ボランティア作業する準備に取り掛かった。その後、宿舎からほど近い、地元企業所有の大きな工場に到着した。そこには、泥や海藻などに埋もれている資材や建機があり、私たちはまずその除去から作業を始めた。女性の参加が多い中、力仕事にも班ごとに取り組み、汗を流した。終了したとき、皆の顔に疲労感が滲み出ていたが、留学生達は満足しているようでもあった。

1日目の作業終了後、被害が最も甚大であった地域のひとつ女川町に行った。そこは、道路がゆがみ、港が破壊され、建物が無残な姿をさらしていた。留学生達は案内人の説明に真剣に耳を傾け、さっきまで行った作業の疲れを忘れ、明日も頑張ろうと意気込んだ。

その日の夜、宿舎ではボランティアに来ていた日本人グループとの交流会が行われた。それぞれがこの日の活動を振り返り、思いのたけを述べたのち、これから自分たちが出来る事、しなければいけないことなどを話し合い、留学生にとっても日本人にとっても記憶に残る交流が出来た。

翌日、多くの学生が体のあちこちに筋肉痛を感じながらも作業の準備をはじめたが、外は生憎の荒れ模様であり、待機を余儀なくされた。結局、2日目の作業は中止となり、帰京の途についた。

最後に、この活動を通して、日本語学校留学生の「日本」への気持ちが強いことを感じ、改めて、多くの国の人々に日本へ来てもらわなければならないと思った。



第二回ボランティア隊隊長
新井 永鎮



第二回ボランティア参加体験記を作りました。

ご希望の方は、

alao@sannet.ne.jp

までEメールでご依頼ください。

PDF ファイル版の体験記をお送りいたします。

日本語教育振興協会 東京地区選出評議員からの報告 1

日本語学校と日振協の今後



先におこなわれた懇談会、評議員会において、日振協の一般財団への移行申請を当初の平成24年7月予定から、総務省の指導もあり、積立金の取り崩しが終わる平成25年7月へと延ばしたいとの意向が示された。

同時に、平成24年度の予算案も示された。

予算案が示されるときには、事業内容も同時に検討されなければならないが、その点での提案はほぼ昨年並みということらしい。(6月21日の評議員会・理事会にて決定予定)

昨年の大震災以来、多くの日本語教育機関が学生募集に苦勞し瀕死の状態にありながらも、リストラも含め、なんとか現状を乗り越えようとしている時、その取りまとめ役である日振協側が何も変わろうとしないように見えることにいらだちをおぼえる。何度かそのことにつき意見を述べたつもりではあり、評議員を中心に変化の兆しは少しずつは見えるのだが、なかなか一気に動き出すところまではいっていない。もっとさまざまな提案がだされ、それに基づいた議論がなされるべきだと期待していただけに残念である。

この間、会費についての相談も何件か受けた。多くの学校が今後どう対応していったらいいのか、迷っていることがよくわかる。自分自身の中でも議論が続いている。

何よりも、問題のあると思われる学校が乱立してきている混乱状況を早くに終息させ、健全な経営、教育ができる環境を作り出さなければならない。

昨年の末に、日振協加盟をステイタスにしたかどうかの提案がなされたことがあるが、教育の質の担保を考えない単純な発想そのものが、今や論外であろう。状況はもっと切迫している。

学生のことを第一に考え、学生の期待に応えられるような学校作りが必要であり、日振協はその環境作りの手伝いを運営の根幹に置いて問題点を再度見直すべきだ。学校側もあまり日振協に振り回されることなく、今何が必要で、何をしなければならないのか、どう協力し合う必要があるのか独自に具体的に考えたほうがよいと思う。

今後の日振協の在り方を考えたとき、来年から会費を元に戻すことには反対である。現状に合わせ、業務内容を精査し、スリム化し、スタッフももっと若返りを図り民間の力を導入する必要がある。おんぶにだっこの時代はとうに終わったはずなのに、当事者がいまだに気づこうとしていない。

そんなに遠くないどこかで最後通牒が必要になるかもしれないが、善意の人々の忍耐の緒が切れる前に、何とか動かしたいとは考えている。

上田 一彦

日本語教育振興協会 東京地区選出評議員からの報告 ②



まず初めにご報告しなければならない事は、私は健康上の理由により本年4月をもちまして東京中央日本語学院・学院長職を退任致しました。

因って、地区評議員の資格を鑑み（財）日本語教育振興協会・佐藤次郎理事長にご相談のうえ、4月末日に「辞任届」

を提出させて頂きました。今後につきましては、佐藤理事長にお任せしている次第でございます。皆さま方のご理解を頂きたく宜しくお願い申し上げます。

さて、表題に関する活動のご報告ですが、去る3月28日（水）「評議員懇談会」（於：日振協会会議室）と、翌日29日（木）「評議員会」（於：如水会館）が行われました。

今回の主な議題は、（財）日振協が平成25年に「一般財団法人化」をはかると言うものでした。当初は、「社団法人化」への検討も行われたようですが、現状では課題が多く、次回に検討を残してゆくとの事でした。また、平成24年に申請を行わずに平成25年まで延期する理由としては、現在、（財）日振協が保有する内部留保金の対応（会費減免期間）に、1年の残存猶予があるとの説明でした。

また、今までとの大きな相違点は、「評議員」が（財）日振協の運営や決定に直接関わる権限を有するとの事でした。次期評議員数は、今までより削減され（財）日振協内で決定後、本年度末の「一般財団法人」書類申請の際に登録が行われる予定だそうです。

私自身の意見としては、現在の日本語教育機関の現状や立場を良く理解している方に評議員認定をして頂き、今後多くの日本語教育機関を擁護、発展させて頂ければと願う次第です。

また、この会議で気になった点は本年度の予算編成でした。（財）日振協の概算では、現在、確認している約450校中から約400校弱の日本語教育機関の年会費を基礎計算としているようですが、日本語教育機関の現状を考えるとこの数字が妥当なものであるかどうか？私には皆目判断が付きません。

なお、東京地区・評議員の活動の一環として、さる4月13日（金）に法務省・東京入国管理局に訪問して参りました。

東京入国管理局も4月に新人事となり、主席審査官：山田 正之氏・統括審査官：山田 政示氏・統括審査官：東 清江さま（女性）とお話して参りました。

今回、大きな変化は無いように感じましたが、皆さまもご存知のように、韓国、台湾が（3・11東日本大震災や福島原発放射能風評被害の要因も含め）右肩下がりに対して、ベトナムが増加傾向にあるとの事でした。今後、ベトナムからの留学希望者の経費支弁能力をチェックする可能性もあるとのことです。（本年4月期生は大阪入管で経費支弁能力をチェックしたそうです。）

また、留学生の違法活動も若干増加傾向にあるので、各校とも学生に対するコミュニケーションとアドバイスを充実させて欲しいとの旨でした。

なお、東京入国管理と東京・関東甲信越の日本語学校との情報交換会？」の開催をお願いして参りました。

現在、東京地区・評議員内では、近日中に「東京地区・日本語教育機関情報交換会？」を実施したとの意見が出ております。

白井 義弘



2011年度（第10回）エルエスエイチアジア奨学金授与式のご報告

2011年度は応募者77名の中から54名の日本語学校生に奨学金をお渡ししました。内12名は冠奨学生、他に2名が、「がんばれ 東北！」卒の学生です。これは、3月11日の東日本大震災の被災地に居住する留学生への支援を目的に、今回特別に設けた奨学金です。なお、奨学生の累計総数は539名となりました。奨学金授与式は10月14日四谷の主婦会館プラザエフにて



開催され、出席奨学生は、首都圏で学ぶ学生に加え、神戸、名古屋、静岡にある日本語学校に通う学生も駆けつけ35名に達しました。授与式終了後、交流会を開催しました。奨学生および奨学会関係者に加えて、奨学会の活動を支えてくれる支援者にも参加者を呼び掛け、総勢90名による集いとなりました。支援者の方々には、奨学会の活動を具体的に実感して頂けたようです。

おかげさまで奨学会は設立から10年になりました。

これまで 539名の日本語学校生に奨学金をお渡し致しました。

会員募集中

TEL: (03) 5295 - 0252 FAX: (03) 5295 - 0266
e-mail : ish-asia-shogakukai@isis.ocn.ne.jp

[http:// www.lsh-asia.org/](http://www.lsh-asia.org/)

皆さまの温かいご支援を

お待ちしております。

特定非営利活動法人 エルエスエイチアジア奨学会

語学留学生フェア2012～進学・就職・国際交流～開催のお知らせ

- ◆開催日時：日時 平成24年10月24日（水） 10:00 - 16:00
- ◆開催場所 池袋サンシャインシティ文化会館（2階 展示ホールD）
〒170-8630 東京都豊島区池袋3-1-4 池袋サンシャインシティ内文化会館

◆内容

- ・ 進学コーナーでは、各参加校（大学院・大学・専門学校）に協力いただき現役の大学院、大学生、留学生による進学・就職相談コーナーも設けます。
- ・ 就職コーナーでは、留学生獲得に積極的な企業情報や、面接マナー、先輩のアドバイスコーナーを予定しております。
- ・ 国際交流コーナー「がんばれ留学生！」では、日本人と留学生の交流の場を設けて、日本語交流サロン～日本の大学生と友達になろう！～や、各国在日留学生協会の協力で学生参加型のコーナーを予定しております。
- ・ **語学留学生特別奨学金** ⇒ 語学留学生フェアに参加された日本語学校生の中から抽選で3名（予定）の方に、10万円ずつの奨学金が「語学留学生フェア実行委員会」より授与されます！

●主催：語学留学生フェア実行委員会／後援 日本語学校ネットワーク

●運営：株式会社さんぼう／GLナビゲーション株式会社／株式会社ミューズの里